

令和元年度測定結果

令和元年度は、11月28日（木）から11月29日（金）において、「A 河原町交差点」、「B 大森交差点」、「D 藤沢交差点」「F 工業団地入口交差点」の4地点にて、24時間の調査を行いました。

結果は次のとおりです。調査項目の内、環境基準が定められている物質については、全地点全項目で基準を達成しました。

調査地点		SPM (mg/m ³)		粉じん量 (μg/m ³)	NO (ppm)	NO ₂ (ppm)	1,1-ジクロロエチレン (a) (ng/m ³)	ベンゼン (μg/m ³)	備考
		平均値	最大値						
A 河原町交差点	数値	0.002	0.007	18	0.013	0.018	0.07	0.6	隔年実施
	評価	○	○	-	-	○	-	○	
B 大森交差点	数値	0.003	0.006	13	0.010	0.018	<0.05	0.6	隔年実施
	評価	○	○	-	-	○	-	○	
D 藤沢交差点	数値	0.003	0.014	16	0.023	0.015	0.08	1.1	毎年実施
	評価	○	○	-	-	○	-	○	
F 工業団地入口交差点	数値	0.006	0.011	26	0.010	0.016	0.08	0.7	毎年実施
	評価	○	○	-	-	○	-	○	
環境基準		0.10 mg/m ³ 以下	0.20 mg/m ³ 以下	基準なし	基準なし	1時間値の1日平均値 0.06ppm 以下	基準なし	3.0 μg/m ³ 以下	

※「評価」の項目は、環境基準の達成状況を示しています。

①測定結果の経年変化（H22～R元）

測定結果の経年変化は次のとおりです。表中の「評価」の項目は、環境基準の達成状況を示しています。環境基準が定められている物質については、経年変化をグラフで示します。

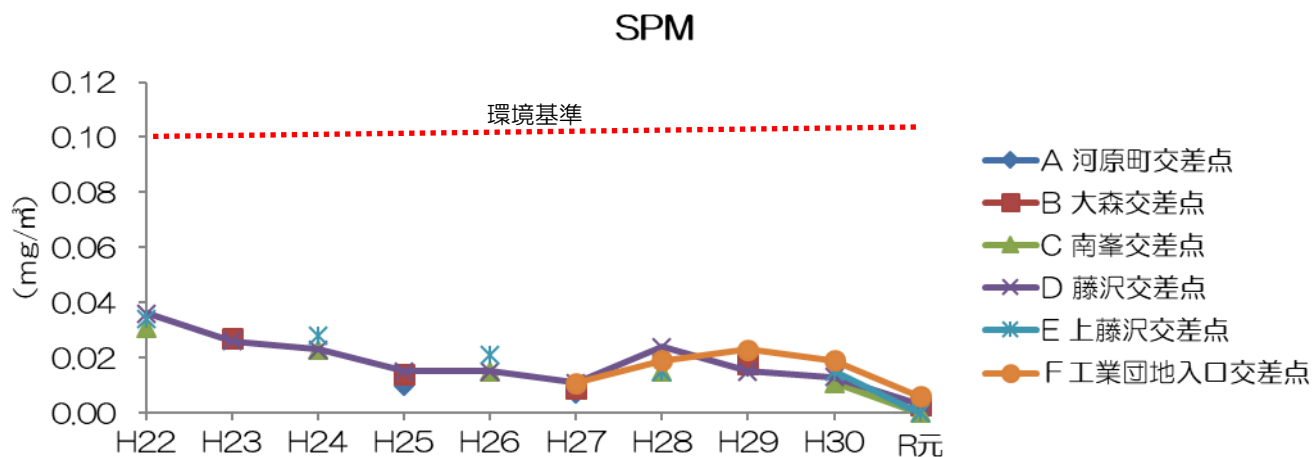
	項目	単位	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	環境基準
A 河原町交差点	SPM	mg/m ³	-	0.027	-	0.010	-	0.007	-	0.017	-	0.002	0.10mg/m ³ 以下
		評価	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○	
	粉じん量	μg/m ³	-	39	-	26	-	18	-	20	-	18	-
	NO	ppm	-	0.018	-	0.038	-	0.033	-	0.022	-	0.013	-
	NO ₂	ppm	-	0.022	-	0.025	-	0.021	-	0.022	-	0.018	0.06ppm以下
		評価	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○	
1,1-ジクロロエチレン	ng/m ³	-	0.68	-	0.24	-	0.08	-	<0.05	-	0.07	-	
ベンゼン	μg/m ³	-	1.3	-	1.2	-	0.8	-	1.0	-	0.6	3.0μg/m ³ 以下	
	評価	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○		
B 大森交差点	SPM	mg/m ³	-	0.027	-	0.014	-	0.009	-	0.018	-	0.003	0.10mg/m ³ 以下
		評価	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○	
	粉じん量	μg/m ³	-	37	-	29	-	13	-	21	-	13	-
	NO	ppm	-	0.042	-	0.044	-	0.028	-	0.013	-	0.010	-
	NO ₂	ppm	-	0.032	-	0.026	-	0.020	-	0.022	-	0.018	0.06ppm以下
		評価	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○	
1,1-ジクロロエチレン	ng/m ³	-	0.34	-	0.37	-	0.10	-	0.07	-	<0.05	-	
ベンゼン	μg/m ³	-	1.5	-	2.3	-	0.8	-	0.9	-	0.6	3.0μg/m ³ 以下	
	評価	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○		
C 南峰交差点	SPM	mg/m ³	0.031	-	0.023	-	0.015	-	0.015	-	0.011	-	0.10mg/m ³ 以下
		評価	○	-	○	-	○	-	○	-	○	-	
	粉じん量	μg/m ³	81	-	82	-	130	-	120	-	24	-	-
	NO	ppm	0.058	-	0.061	-	0.054	-	0.033	-	0.032	-	-
	NO ₂	ppm	0.026	-	0.025	-	0.020	-	0.021	-	0.018	-	0.06ppm以下
		評価	○	-	○	-	○	-	○	-	○	-	
1,1-ジクロロエチレン	ng/m ³	0.67	-	1.3	-	0.78	-	0.23	-	0.11	-	-	
ベンゼン	μg/m ³	2.5	-	2.3	-	2.3	-	1.5	-	1.3	-	3.0μg/m ³ 以下	
	評価	○	-	○	-	○	-	○	-	○	-		

	項目	単位	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	環境基準
D 藤沢交差点	SPM	mg/m ³	0.036	0.026	0.023	0.015	0.015	0.011	0.024	0.015	0.013	0.003	0.10mg/m ³ 以下
		評価	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	粉じん量	μg/m ³	48	37	72	43	80	19	20	18	30	16	—
	NO ₂	ppm	0.077	0.043	0.112	0.078	0.083	0.058	0.037	0.026	0.026	0.023	—
		評価	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ノゾジ(al)k'lj	ng/m ³	0.43	0.44	1.0	0.36	0.62	0.13	0.15	<0.05	0.29	0.08	—
ハンゼン	μg/m ³	3.1	2.3	3.2	2.3	3.3	1.5	1.9	1.3	1.9	1.1	—	
	評価	×	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	3.0μg/m ³ 以下
E 上藤沢交差点	SPM	mg/m ³	0.034	—	0.028	—	0.021	—	0.015	—	0.015	—	0.10mg/m ³ 以下
		評価	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	
	粉じん量	μg/m ³	38	—	58	—	62	—	49	—	36	—	—
	NO ₂	ppm	0.055	—	0.101	—	0.094	—	0.039	—	0.083	—	—
		評価	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○
	ノゾジ(al)k'lj	ng/m ³	0.33	—	1.0	—	0.36	—	0.15	—	0.33	—	—
ハンゼン	μg/m ³	2.2	—	2.6	—	2.5	—	1.5	—	1.8	—	—	
	評価	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○	3.0μg/m ³ 以下
F 工業団地入口交差点	SPM	mg/m ³	H27年度より実施					0.011	0.019	0.023	0.019	0.006	0.10mg/m ³ 以下
		評価						○	○	○	○	○	
	粉じん量	μg/m ³						—	47	20	43	26	—
	NO ₂	ppm						0.070	0.115	0.013	0.112	0.010	—
		評価						○	○	○	○	○	○
	ノゾジ(al)k'lj	ng/m ³						—	0.21	0.11	0.26	0.08	—
ハンゼン	μg/m ³						1.0	1.5	1.1	1.4	0.7	—	
	評価						○	○	○	○	○	○	3.0μg/m ³ 以下
風速	m/s	0.5	0.8	1.0	0.5	0.7	0.5	0.7	0.7	0.5	1.3	—	

• SPM（浮遊粒子状物質）

環境基準は、1時間値の1日平均値が0.10 mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20 mg/m³以下であることです。グラフは、1時間値の1日平均値の経年変化です。

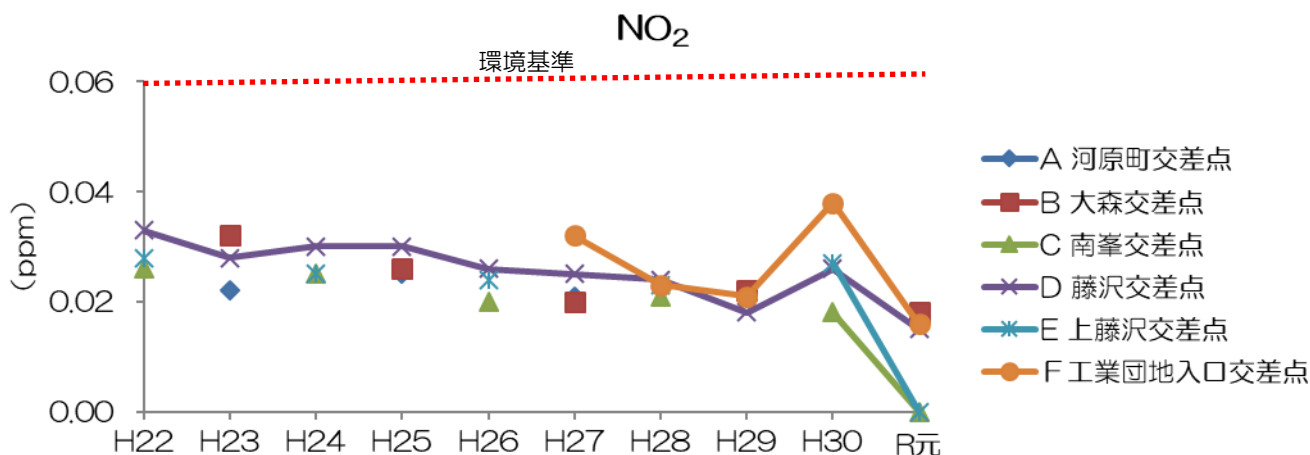
地点間で大きな差は無く、全ての地点で環境基準を達成する状況が続いています。



• NO₂（二酸化窒素）

環境基準は、1時間値の1日平均値が0.04 ppmから0.06 ppmまでのゾーン内またはそれ以下であることです。

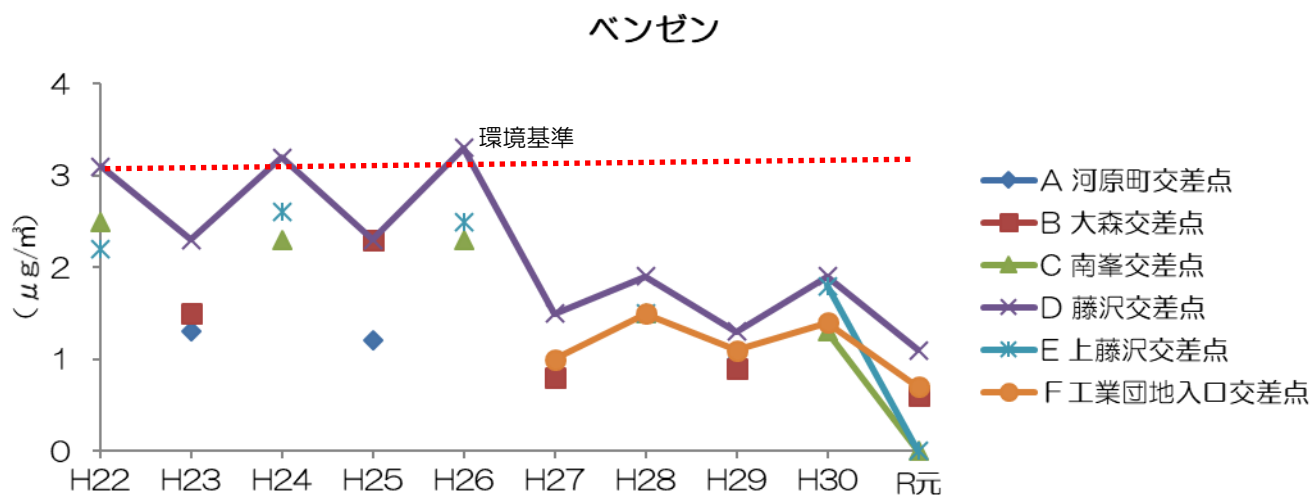
全ての地点で環境基準を下回る状況が続いています。



・ベンゼン

環境基準は、1年平均値が3.0 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であることです。

環境基準との比較は年間を通じた測定が必要なため、参考としての比較になります。令和元年度は全ての地点で環境基準を下回りました。



※0.05 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 未満を0.05 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ と表示しています。

2 大気汚染常時観測（県実施）

埼玉県では、県内の大気汚染について常時監視を行っています。ここでは、入間市内にある測定局の測定状況について紹介します。

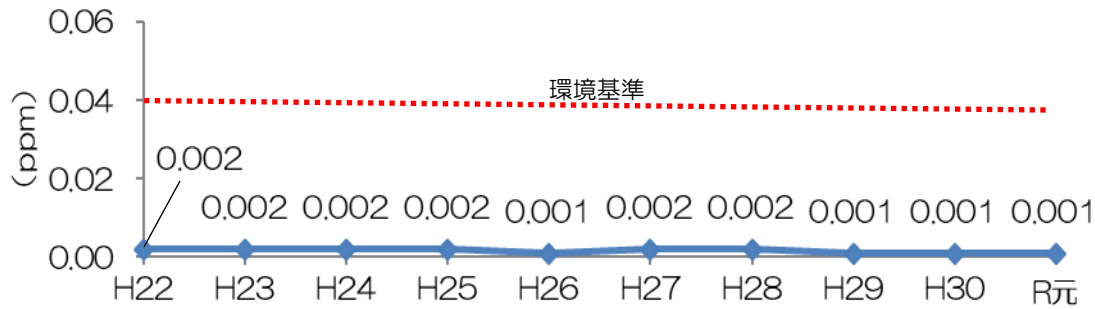
①入間一般環境大気測定局（東町1丁目 富士見公園内）

住宅街等の生活環境における大気汚染状況の測定を行っています。測定物質のうち環境基準が定められている物質の経年変化は次のとおりです。

・二酸化硫黄（SO₂）

環境基準は、1時間値の1日平均値が0.04 ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1 ppm以下であることです。グラフは、1時間値の1日平均値（※年間2%除外値）の経年変化です。測定結果は、環境基準を下回る状況が続いています。

SO₂

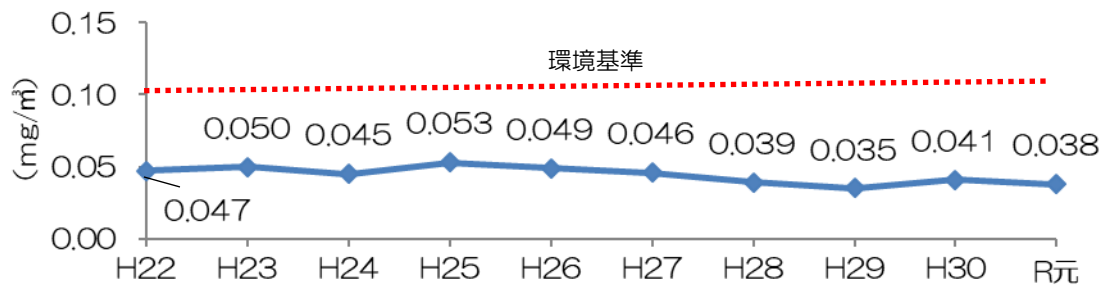


・浮遊粒子状物質 (SPM)

環境基準は、1時間値の1日平均値が0.10 mg/ m³以下であり、かつ、1時間値が0.20 mg/ m³以下であることです。

グラフは、1時間値の1日平均値(※年間2%除外値)の経年変化です。測定結果は、環境基準を下回る状況が続いています。

SPM

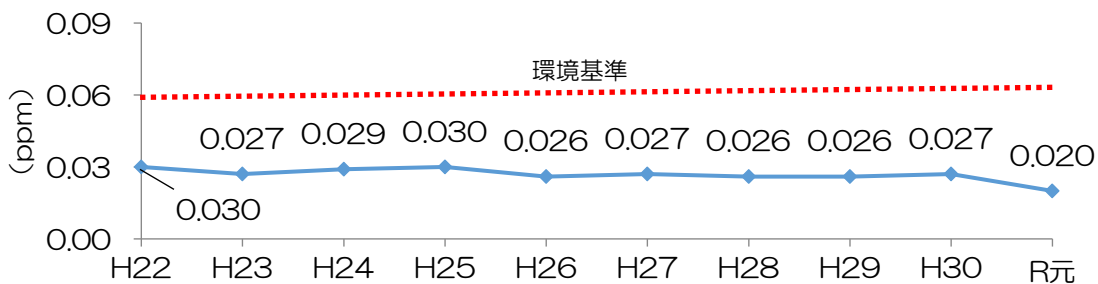


・二酸化窒素 (NO₂)

環境基準は、1時間値の1日平均値が0.04 ppmから0.06 ppmまでのゾーン内またはそれ以下であることです。

グラフは、年平均値(1時間値の1日平均値※年間98%値)の経年変化です。測定結果は、環境基準を下回る状況が続いています。

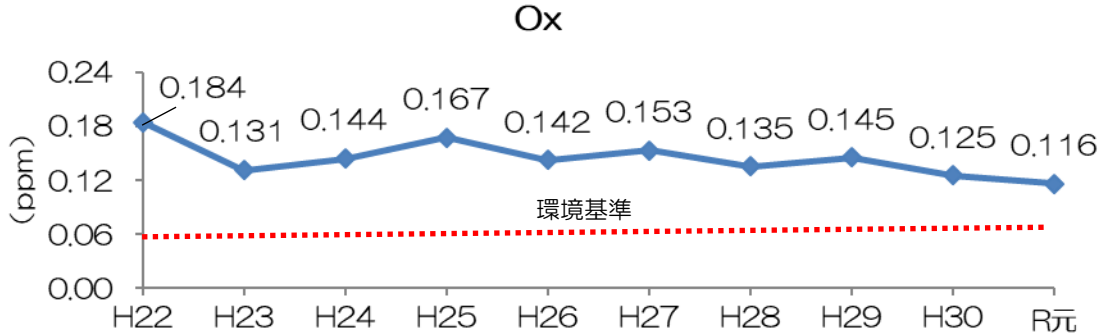
NO₂



・光化学オキシダント (Ox)

環境基準は、1時間値が0.06 ppm 以下であることです。

グラフは、昼間の1時間値の最高値の経年変化です。測定結果は、環境基準を上回る状況が続いています。



光化学オキシダントは、自動車の排出ガスや工場のばい煙などに含まれている窒素酸化物や炭化水素などが、太陽の紫外線により複雑な光化学反応を起こして生成されます。これらの物質が空中に停留し白くモヤがかかった様な状態を光化学スモッグといい、ある濃度以上になると人体や植物等に悪影響を与えます。

そのため、県では観測結果に基づき、濃度が高濃度になった際は、注意報や警報を発令します。市では県の発令を受け、防災行政用無線などを用いて市民に周知します。

なお、発令地区は県内で8地区に分けられ、入間市は県南西部地区に含まれます（その他川越市、所沢市、飯能市、狭山市、富士見市、坂戸市、鶴ヶ島市、日高市、ふじみ野市、三芳町）。

光化学スモッグ発令基準

発令区分	発令基準
予報	光化学オキシダント濃度が0.12 ppm以上となることが予想されるとき
注意報	オキシダント測定値が0.12 ppm以上となったとき
警報	オキシダント測定値が0.20 ppm以上となったとき
重大緊急報	オキシダント測定値が0.40 ppm以上となったとき

令和元年度の発令状況

(単位：日)

地区	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	合計
県南西部地区	注意報	0	3	0	0	2	0	0	5
	警報	0	0	0	0	0	0	0	0

発令状況の推移

(単位：日)

地区	年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
埼玉県全体	注意報	25	17	7	13	13	16	1	15	10	9
	警報	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南西部地区	注意報	14	9	3	9	11	9	1	5	2	5
	警報	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

光化学スモッグによる健康被害の届出件数の推移

地区	項目	単位	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
埼玉県	届出件数	件	0	4	2	0	0	0	0	0	0	1
	届出人数	人	0	7	9	0	0	0	0	0	0	1
県南西部 地区	届出件数	件	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	届出人数	人	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0

・微小粒子状物質 (PM2.5)

環境基準は、1年平均値が $15 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ1日平均値が $35 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であることです。

入間局における令和元年度の年平均値は $9.1 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 、環境基準を超過した日はありませんでした。

また県では、環境省が平成25年2月に設置した暫定指針への対応として、1日平均値が $70 \mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えるおそれの有無について、また、それに伴う注意喚起について、県公式ホームページ等にて公表しています。市では、県からの連絡を受け、防災行政用無線などを用いて市内に周知を行います。

なお、注意喚起の判断のもととなる測定については、入間局を含む48局の一般環境大気測定局にて実施しています。注意喚起等の発令地域区分は光化学スモッグと同じ8区分で、入間市は県南西部地区に含まれます。

令和元年度は暫定指針への対応として注意喚起等を行った日はありませんでした。

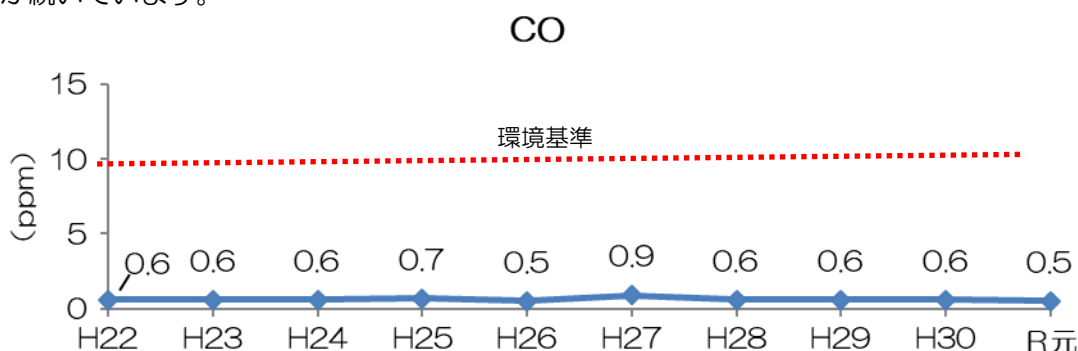
②国設入間自動車排出ガス測定局（高倉5丁目地内国道16号脇）

自動車排出ガスの影響を受ける道路沿道環境における大気汚染状況の測定を行っています。測定物質のうち環境基準が定められている物質の経年変化は次のとおりです。

・一酸化炭素 (CO)

環境基準は、1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であることです。

グラフは、1時間値の1日平均値（※年間2%除外値）の経年変化です。測定結果は、環境基準を下回る状況が続いています。

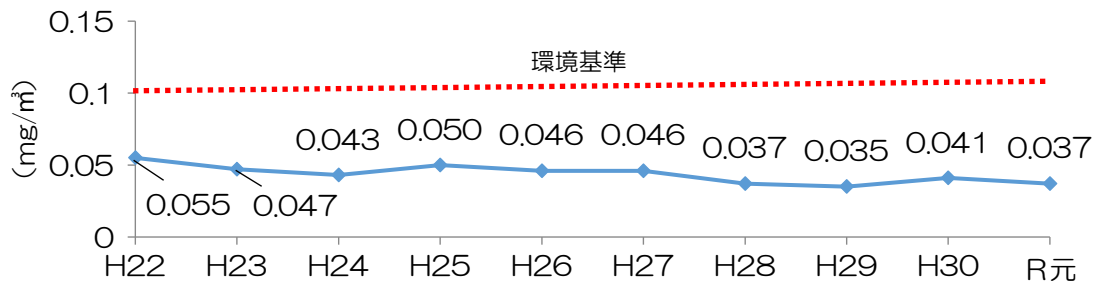


・浮遊粒子状物質 (SPM)

環境基準は、1時間値の1日平均値が $0.10 \text{mg}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1時間値が $0.20 \text{mg}/\text{m}^3$ 以下であることです。

グラフは、1時間値の1日平均値（※年間2%除外値）の経年変化です。測定結果は、環境基準を下回る状況が続いています。

SPM

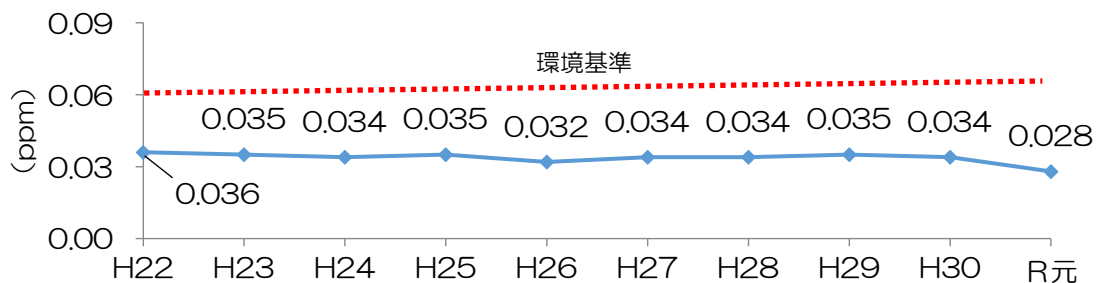


• 二酸化窒素 (NO₂)

環境基準は、1時間値の1日平均値が0.04 ppmから0.06 ppmまでのゾーン内またはそれ以下であることです。

グラフは、年平均値（1時間値の1日平均値※年間98%値）の経年変化です。測定結果は、環境基準を下回る状況が続いています。

NO₂

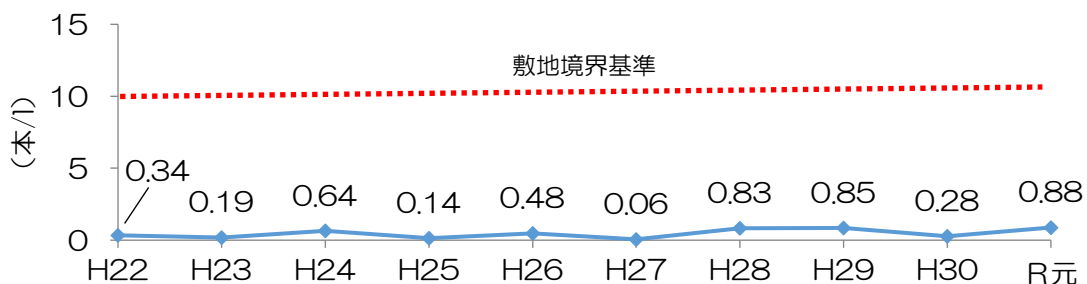


• アスベスト（石綿）

環境基準は定められていませんが、大気汚染防止法で定める石綿製品製造事業所の敷地境界基準値として、石綿濃度が10本/l（全種類のアスベストとして）以下と定められています。

敷地境界基準は、石綿の排出等を行う工場・事業場に対してのものなので、参考としての比較になりますが、測定結果は基準を下回る状況が続いています。

アスベスト



• 微小粒子状物質 (PM2.5)

環境基準は、1年平均値が15 μg/m³以下であり、かつ、1日平均値が35 μg/m³以下であることです。

国設入間自排局における令和元年度の年平均値は10.5 μg/m³で、環境基準を超過した日はありませんでした。